

工業部会 通信

(発行)
かながわ経済新聞合同会社
〒252-0239
相模原市中央区中央3-12-3
商工会館本館1階
※プリントしてご自由にお読みください。

かながわ経済新聞
KANAKAI

「働き方改革」で講演会 先進2社の事例学ぼう

GETプロジェクト

工業部会GETプロジェクトは11月27日、市立産業会館で「『働き方』で会社が変わる！」と題した経営セミナーを開催した。社員数7人、残業ゼロで社員の最低年収600万円を実現している金属加工業、吉原精工（綾瀬市）の吉原博会長と、女性活用を積極的に進め、締結部品のブラーディングに成功しているサイマコーポレーション（藤沢市）の斎間孝社長を招いた。



熱く語る斎間社長

吉原精工はリーマンショック後、数々の社内改革を断行し、残業一切なくとも最低年収600万円、



吉原精工の吉原会長

年3回の10日連続休み、完全週休2日などを実現。ワイヤーカット加工に特化した同社は「うまい、やすい、はよい」を武器に、営業マンがいなくとも絶えず仕事がまわってくる。改革で徹底したムダの排除は会議も禁止するほど。吉原会長の大改革により「ムダを徹底排除し、その分給料やプライベートルに反映する」最強の町工場が実現している。ねじ製造販売、サイマコーポレーション本社に勤務する従業員の半分以上が女性を占める同社で

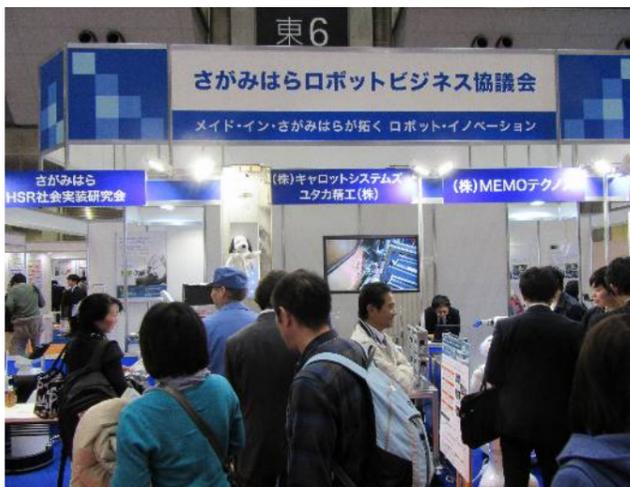
は、海外営業や品質管理など、さまざまな部門で女性が活躍している。中には2ヶ国語、3ヶ国語を話せる人もいる。同社では、人を集めるためにフレキシブルな勤務形態を導入し、優秀な女性を採用している。販売戦略もユニーク。いわゆる「御用聞き営業」は一切せず、高付加価値のあるオリジナル製品を次々とリリース。ねじのブランド化による独自戦略で、業界としては異例の海外展開をおこなっているという。

ロボットビジネス協議会



相模原ブースで展示した「HSR」

国際ロボット展 8社共同で出展 13万人が来場



数多くが来場した相模原ブース

さがみはらロボットビジネス協議会（金沢勇会長）は、11月29日から12月2日に東京ビッグサイトで開催された「2017国際ロボット展」に出

展した。4日間で延べ約13万人の来場があり、出展した企業は自社のロボット技術を広くPRした。協議会ブースでは、産業ロボットやサービスロボットの展示が数多くあり、多くの来場者がその技術に関心を示していた。

出展企業等は次の通り。永進テクノ(株)、FIDesign(株)、(株)キャロットシステムズ、(株)MEMOテクノ(株)、(株)メディアプラス、(株)MEMOテクノス、ユタカ精工(株)、さがみはらロボット導入支援センター、さがみはらHSR社会実装研究会（8社2団体）

会員交流大会開催へ

「人材採用」テーマにミニセミナーも企画

工業部会KIZUNAプロジェクトは、2月9日の午後6時半から市立産業会館で「第8回会員交流大会」を開催する。今回は「中小製造業における人材採用（主に技術系）」を交流テーマとし、国内・海外の高専生・専門学校生の獲得について、企業間や学校、行政、支援機関で交流を実施する。

第一部はミニセミナーとして「高専卒業生の採用（国内・海外人材採用について）」を企画。講師にはアスク代表取締役の佐々木桂一氏を招く。佐々木氏は「国内高専の卒業生を採用するには」と題して▽高専の仕組み▽高専生の進路について▽高専生の採用方法などについて説明する。また、後半は「モンゴル高専の採用」について、モンゴル国・高専数学教育改善プロジェクト（高専機構）代表の佐藤義隆氏が話す。ここで▽モンゴルの高専▽卒業生の就労に関する相模原市・相模原商工会議所との連携▽インターンシップなどを解説する。第二部では交流会に移る。定員50人まで。参加費は2000円。問い合わせは工業振興課042・753・8136まで。



さあ、5年後の未来を見に行こう。

新規会員募集中 近未来技術研究会

相模原商工会議所工業部会